



平賀駅の地下にあったスーパーマーケット  
1970（昭和45）年頃・青森県史編さん資料より

大きな駅の地下には、デパートやスーパーマーケットが直結していることがある。雪が多い青森県では、

駅地下の施設は重宝されるはずだが、現在の青森県には駅地下のスーパーは存在しない。しかし、青森県が高度経済成長期を迎えていた1960年代、弘南鉄道

の平賀駅には地下にスーパーマーケットがあったのである。

弘南鉄道は1927（昭和2）年、弘前と津軽尾上間に開通した。国鉄を除けば、陸奥鉄道と十和田鉄道に次ぐ、県内で3番目の鉄道だった。弘南鉄道は敗戦後間もない1948（昭和

23）年に県内初の電化を実現。2年後には黒石まで路線を延ばした。

弘南鉄道の電化に刺激され、1951（昭和26）年には十和田鉄道が電化を実現し、十和田観光電鉄と改称した。翌年には弘前電気鉄道（後の弘南鉄道大鰐線）が、当初から電車として誕生した。

青森県内を走る国鉄の電化は1968（昭和43）年

平賀駅を設置。駅前に商店を建てて貸し付けた。これ以後、飲食店や旅館・病院・商店等が建設され繁華街が出来た。平賀町（現平川市）の中心街は弘南鉄道が造り出したといつてよいだろう。

そのことを最もよく象徴しているのが、開業35周年を記念して新築された平賀駅舎である。1962（昭和37）年9月7日にできた駅舎の前には、記念碑が設

## 平賀駅の地下スーパー

中園 裕

（県民生活文化課  
県史編さんグループ  
主幹）

である。鉄道の電化は、国鉄より私鉄の方が断然早かったのだ。地元青森県人の気概を反映する事実として記憶されたい。特に最初に電化を試みた弘南鉄道の先見性は、歴史的にも大きな意義がある。

弘南鉄道の創設者で、初代社長だった菊池武憲は、自らが所有する水田地帯に

置かれた。碑文には「交通の発達は文化を進め産業を興す」とあり、「沿線一帯の産業文化の振興に一層の貢献をなした」と

弘南鉄道の歴史が刻まれている。

新築の平賀駅は、「陸奥新報」が「私鉄では東北一」と掲載したように、当時の県内各駅に比べ非常に大きく立派だった。そして、この駅舎には県内でも特筆すべき施設があった。平賀農協と弘南鉄道が共同で経営する地下のスーパーマー

ケットである。平賀駅地下スーパーは品揃えが良く、雨や雪を避けられるので、当時の主婦層から圧倒的な支持を得ていた。床屋もあって、サラリーマンの男性たちが重宝した。駅の正面出入口から、すぐに地下に入れたから、通学途中の女生徒たちがパンやお菓子をよく買っていた。彼女たちは「駅の穴」と呼んでいたという。面白い愛称だ。平賀町民を中心に、駅地下スーパーは多くの人々に重宝され親しまれたのである。しかし、駅地下スーパーは1986（昭和61）年に現在の駅舎となって閉鎖された。

現在の駅舎玄関口を出て、すぐ左側のタイル張りの場所に郵便ポストがある。そこに郵便ポストがある。そして、その周辺のタイルだけ色が違う。実は、この色違いのタイルの場所が、駅地下スーパーへの出入口だったのだ。単なる痕跡ではあるが、平賀町民の生活史を物語る証拠として記憶されたい。